

2024_0828「台風10号の目（動画）」日々の理科 3674号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

今回の「台風10号」は、気象庁によれば「史上最強クラス」とのことです。確かにこのまま九州に上陸すれば、雨風ともに甚大な被害が生じる恐れが大きいように思います。

非常に強い台風には「目」がはっきりと現れます。このことは、「バケツ台風」の実験でもわかります。青いバケツに水を半分ぐらい入れて、雲に見立てたトイレットペーパーを投入後、適当な棒で「反時計回り」にかき混ぜると、台風そっくりの渦ができます。強くかき混ぜる（風速を大きくする）と、中心部にはっきりした「目」が出現するのです。

今回の「台風10号」も、奄美大島に接近した頃から、顕著な「目」が観察されました。気象庁のホームページでは、台風の全体像の中に目が小さく写っているだけですが、別サイトの高解像度画像で「目」だけ観察すると、いろいろなことがわかります。目には全く雲がなく、快晴域と思っていたのですが、それはむしろ稀なことで、恐らく低層雲で覆われているように見えました。その低層雲も渦を巻いているところも興味深いと思いました。この日、目の直径は約15kmで、喜界島をすっぽり覆うほどの大きさでした。

台風の被害は心配ですが、こういう非常に強い台風が来た時は、できるだけいろいろな情報を記録しておいて、今後の実践に生かせるようにしておきたいと思っています。

(2024年8月下旬／気象衛星可視高解像度画像)

